



第2章

都市づくりの目標

1. 岩国市の将来像
2. 都市づくりの基本理念
3. 目標人口
4. 都市づくりの目標
5. 将来都市構造

第2章

都市づくりの目標

1 岩国市の将来像

本市の都市づくりの将来像を以下のとおり掲げます。

第2次岩国市総合計画の将来像

豊かな自然と歴史に包まれ、笑顔と活力あふれる交流のまち岩国
～人・まちをつなぐ明日への架け橋～

岩国市都市計画マスタープランの将来像

豊かな自然と共生する 活力あふれる都市 いわくに
—交流・協働・共創のまちづくり—

2 都市づくりの基本理念

岩国市都市計画マスタープランの将来像を実現するため、以下の3つの基本理念を踏まえた都市づくりを推進します。

交流・連携

人が集い、働き、行き交う
にぎわいのあるまちづくり

都市機能や多様な産業が集積し、人々が集い、働き、行き交うにぎわいのある都市・地域の拠点を形成するとともに、総合的な交通網や情報通信網の整備による地域間連携の強化を図ります。

暮らし・環境

都市と自然が共生し市民が
安心して暮らせるまちづくり

岩国市の特色である山・川・海の豊かな自然を守り育て、都市と自然が共生するまちづくりを進めるとともに、子供から高齢者までの誰もが安全かつ安心して生活できるまちづくりを進めます。

個性・協働

市民と行政が共に創る
個性と魅力あるまちづくり

まちづくりへの市民参加の仕組みを構築し、地域の特性を熟知している住民と行政が協力し合い、地域の個性と魅力を最大限に活かすことができる公民協働のまちづくりを進めます。

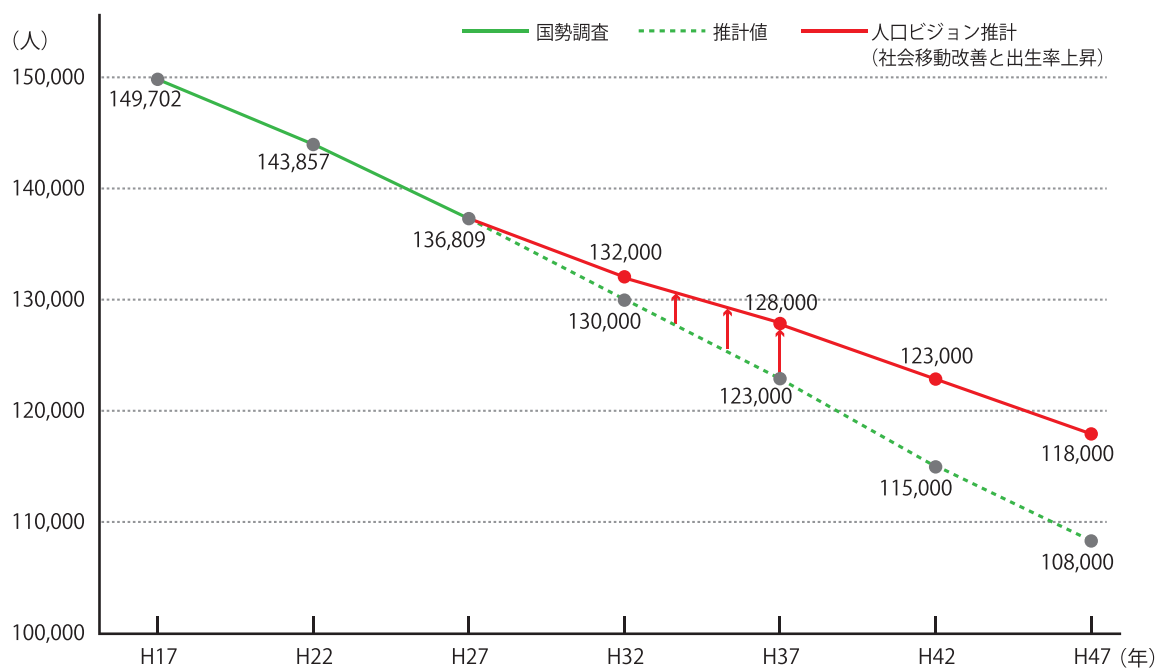
3 目標人口

平成26年12月に策定した「第2次岩国市総合計画」では、減少傾向にある出生者数に対し増加傾向にある死亡者数、転入数を上回る転出数といった人口の自然減・社会減に加え、現状における若年人口の少なさから、一層の人口減少を想定しています。これを受け、子育て支援の充実や産業振興による雇用の確保、高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりを推進し、住み続けたい、住んでみたいと思われる、選ばれるまちとなる施策の総合的な展開により、人口推計値を上回るよう努力することとしています。

その上で、平成27年10月に策定した「岩国市人口ビジョン」においては、若者の定住に関する希望と市民希望出生率が実現した場合の平成37年の人口を128,000人と推計するとともに、将来的な推計値を上回る人口を維持するよう、目標が掲げられています。

「都市計画マスタープラン」においては、これらの考え方に基づき、平成37年の目標人口として、128,000人を上回ることとします。

■将来目標人口



4 都市づくりの目標

本市の将来像と都市づくりの基本理念を踏まえ、都市づくりの課題に対応するため、次のとおり都市づくりの目標を設定します。

1 都市・地域拠点の形成・充実と集約型都市づくり

● 中心市街地の活性化と都市機能の集約による都市拠点の形成

岩国駅を中心とする市街地中心部の既成市街地については、商業・業務機能や公共公益施設、共同住宅等が集積する都市拠点を形成します。

● 各地域の日常生活の中心となる地域拠点の形成

各地域の中心部を担う既成市街地については、地域の日常生活を支える機能が集約した地域拠点を形成します。

● 市街地内の居住促進と市街地拡散の抑制による効率的な市街地の形成

既存の市街地内に残る未利用地や農地等の土地活用を進めるとともに、市街地周辺への市街地拡散を抑制し、効率的な市街地を形成します。

2 拠点ネットワーク*の形成と地域循環型都市づくり

● 各拠点の連携による拠点機能の分担

各拠点の相互連携を前提とした効果的な機能分担を目指し、地域特性に応じた機能配置を図ります。

● 地域・拠点間の交通ネットワークの強化

市内の地域・拠点間の幹線道路網整備や公共交通の連携を強化するため、都市内交通ネットワークの構築を図ります。

● 農山村部と市街地部との密接な連携による地域循環型社会*の形成

農山村部と市街地部とを密接に連携させることによって、市内各地域間の機能分担と相互補完を図ります。

3 多様な地域資源を活かした魅力ある都市づくり

● 歴史や文化等の各地域の個性を活かした魅力ある都市づくり

歴史や文化、自然等の豊富な地域資源を活かし、地域固有の産業や個性を活かした魅力ある都市づくりを図ります。

● 立地特性を活かした新たな魅力の創出

広島都市圏に隣接し、また広域交通に恵まれている立地特性を活かし、他都市との文化交流や産業面における連携強化、観光等による新たなまちの魅力づくりにつなげます。

● 岩国らしい魅力ある都市景観の形成

岩国固有の歴史、文化、自然を未来に継承するとともに、市民がまちに愛着と誇りを持ち、訪れる人々の印象に残る魅力ある都市景観を形成します。

4 安全で安心して生活できる災害に強い都市づくり

● 既成市街地内の市街地環境の改善

既成市街地内の市街地環境を改善し、安心して暮らし続けることができる良好な居住環境の創出を図ります。

● 自然災害の発生抑止と被害の拡大防止

河川のはん^{らん}濫や急傾斜地等における災害の発生抑止と被害の拡大防止によって、安心して生活できる市街地環境を形成します。

● 災害時に対応した施設の整備等による防災対策の強化

災害時に対応した避難場所や避難路等を整備するとともに、市民への防災意識の啓発や公民協働による救援体制の構築等、防災対策の取り組みを強化します。

5 自然環境と調和したみどり豊かで持続可能な都市づくり

● 豊かな自然環境と多様な生態系の保全

無秩序な開発を抑制し、海や川、山等の豊かな自然環境や多様な動植物の生態系の保全を図ります。

● 都市と自然が調和した環境負荷の少ないみどりを育む都市環境の形成

低炭素社会*の実現等に向けて環境負荷の少ない都市を形成するため、市街地の拡大抑制、市街地内の積極的な緑化や市街地周辺の自然環境の保全、鉄道やバス等の公共交通網の整備・充実、徒歩や自転車で移動しやすい交通環境の整備を図ります。

● 持続可能な循環型社会の構築

廃棄物の発生抑制や再使用、再資源化(3R)*、太陽光をはじめとする再生可能エネルギー*の積極的な活用等、地球環境保全に寄与するため、循環型社会の構築に向けた活動拠点や施設の整備等を図ります。

6 市民とともにかたちづくる協働の都市づくり

● 市民と行政とが一体となってまちづくりを進められる体制の構築

これからの都市づくりは、企画から運営に至るまで、地域住民の参加を積極的に推進するため、市民と行政とが一体となったまちづくり体制の構築に取り組みます。

● まちづくり活動の担い手の育成

まちづくり活動を進めるにあたっては、まちづくりリーダーの存在が重要であることから、まちづくりの担い手を積極的に育成します。

《都市づくりの基本方針の体系図》

《社会・経済の潮流》

人口減少・超高齢
社会の到来

環境負荷の軽減に
向けた意識の高まり

自然災害に対する
都市計画の役割

経済のグローバル化
と都市間競争

財政縮小と地方分権
社会への対応

《都市政策上の視点》

市街地の再編及び中心
市街地の機能回復による
集約型都市構造の構築

安全・安心な
都市の形成

拠点間の連携強化と
拠点の魅力の向上

地域資源を活かした
魅力あるまちの創出

地域住民のまち
づくり参加と公民協働
の取り組みの推進

《都市づくりの課題》

都市づくりの特性と問題点

- 市街地部と農山村部が連携し、互いの特性を向上させる仕組みが求められる
- 地理的特性、土地利用制度の違いから市内に2つの都市計画区域が存在
- 都市の成り立ちとともに、一定の都市機能を有する市街地が形成されている
- 都市機能の分散化が見られ、既成市街地で生活利便の低下、拠点性の低下が危惧
- 各地域間を結ぶ道路・交通ネットワークが地形上の制約等で限定的
- 歴史的・文化的なつながり等を背景とする特性を活かした都市活力づくり
- 少子高齢化と生産年齢人口の減少による地域の活力低下の懸念
- 効率的な行財政運営と投資による持続可能な社会資本の整備が必要
- 長期未着手となっている都市計画道路や都市計画事業等への対応
- 市民生活に最も身近な道路や公園、下水道等の都市施設の整備の遅れ
- 自然や歴史・文化資源が数多く分布している
- 岩国錦帯橋空港の開発による広域的な交流増加を背景に、本市の資源の有効活用
- 広域交通結節点が市街地近郊に存在
- 主要道路の慢性的な交通渋滞が市民の生活や産業活動の妨げとなっている
- 山口県之最東部に位置しており、広島都市圏や島根県と密接なつながりを持っている
- 豪雨や地震等による浸水や土砂災害の発生地区又は発生が想定される地区がある
- 道路が狭い等、火災に対して延焼の危険性のある地区や消防活動が困難な地区がある
- 避難場所や避難路の整備や公民協働による救援体制の構築が求められている

①市全域の将来像の実現に向けた一体の都市づくり
岩国市として一つの将来像を掲げ、同じ目標に向って一体の都市づくりを進めていく必要があります。

②都市拠点及び地域拠点の形成・充実
岩国市市街地中心部の都市拠点及び各地域の地域拠点の形成と充実を図るとともに、各拠点の機能分担を図ることが必要です。

③拠点間ネットワーク形成と地域循環型都市づくり
効率的な都市構造を構築するため、拠点間ネットワークの形成を図るとともに、農山村部と市街地部が密接に連携した地域循環型都市づくりを進める必要があります。

④集約型都市構造への転換

人口減少・超高齢社会に対応するため、既成市街地内への都市機能の集約による効率的な市街地形成と市街地内における土地利用の再編を進める必要があります。

⑤適正かつ効率的な都市基盤整備

身近な道路や公園、下水道等都市施設の着実な事業推進を図るとともに、長期未着手の都市計画施設や土地区画整理事業について、今後の整備のあり方の検討を行う必要があります。

⑥豊かな自然環境と地域資源を活用した魅力の向上
豊かな自然環境と数多くの地域資源を有する本市においては、地域の特性を活かしたまちづくりを進め、都市の個性と魅力を高める必要があります。

⑦交通特性や立地特性を活かした都市づくり

本市の恵まれた交通特性及び立地特性を産業活動や文化交流に活かし、都市の活性化や新たなまちの魅力づくりにつなげる必要があります。

⑧災害に強い安心して暮らせる都市づくり

山間地の保水性の維持や市街地の防災機能の向上、公民協働による救援体制の構築等、市民が安心して生活できる居住環境を整える必要があります。

都市づくりの課題

市民意向の反映（市民アンケート）

- ・生活環境では、自宅周辺での緑の豊かさ、身近な道路の利用しやすさ、自然の豊かさの満足度が高い。
- ・不満が高いものとしては、就業の場や娯楽や交流機会の少なさ、公共交通の利便が挙げられている。
- ・今後のまちづくりで大事なことで、災害に対する安心感や公共交通の利便が上位。
- ・都市施設整備については、幹線道路の整備・改良や公共交通機関の利便、身近な狭い道路の改良が上位。
- ・住み続けるための住環境では、医院や病院等が近くに充実している環境や、生活利便施設が徒歩圏にある日常生活が「便利な環境等」が上位。
- ・「活力ある都市」に向けた望ましい都市の姿では、豊かな自然に恵まれた環境を活かした都市が上位。

《都市づくりの目標》

第2次岩国市総合計画の将来像 豊かな自然と歴史に包まれ、笑顔と活力あふれる交流のまち岩国

【岩国市都市計画マスタープランの将来像】

豊かな自然と共生する 活力あふれる都市 いわくに

—交流・協働・共創のまちづくり—

都市づくりの
基本理念

交流・連携

人が集い、働き、行き交う
にぎわいのあるまちづくり

都市機能や多様な産業が集積し、人々が集い、働き、行き交うにぎわいのある都市・地域の拠点を形成するとともに、総合的な交通網や情報通信網の整備による地域間連携の強化を図ります。

暮らし・環境

都市と自然が共生し
市民が安心して暮らせるまちづくり

岩国市の特色である山・川・海の豊かな自然を守り育て、都市と自然が共生するまちづくりを進めるとともに、子供から高齢者までの誰もが安全かつ安心して生活できるまちづくりを進めます。

個性・協働

市民と行政が共に創る
個性と魅力あるまちづくり

まちづくりへの市民参加の仕組みを構築し、地域の特性を熟知している住民と行政が協力し合い、地域の個性と魅力を最大限に活かすことができる公民協働のまちづくりを進めます。

1. 都市・地域拠点の形成・充実と集約型都市づくり

- 中心市街地の活性化と都市機能の集約による都市拠点の形成
- 各地域の日常生活の中心となる地域拠点の形成
- 市街地内の居住促進と市街地拡散の抑制による効率的な市街地の形成

2. 拠点ネットワークの形成と地域循環型都市づくり

- 各拠点の連携による拠点機能の分担
- 地域・拠点間の交通ネットワークの強化
- 農山村部と市街地部との密接な連携による地域循環型社会の形成

3. 多様な地域資源を活かした魅力ある都市づくり

- 歴史や文化等の各地域の個性を活かした魅力ある都市づくり
- 立地特性を活かした新たな魅力の創出
- 岩国らしい魅力ある都市景観の形成

4. 安全で安心して生活できる災害に強い都市づくり

- 既成市街地内の市街地環境の改善
- 自然災害の発生抑止と被害の拡大防止
- 災害時に対応した施設の整備等による防災対策の強化

5. 自然環境と調和したみどり豊かで持続可能な都市づくり

- 豊かな自然環境と多様な生態系の保全
- 都市と自然が調和した環境負荷の少ないみどりを育む都市環境の形成
- 持続可能な循環型社会の構築

6. 市民とともにかたちづくる協働の都市づくり

- 市民と行政とが一体となってまちづくりを進められる体制の構築
- まちづくり活動の担い手の育成

都市づくりの
目標

5 将来都市構造

岩国市都市計画マスタープランが目指す将来像及び都市づくりの目標の実現に向けて、将来の都市構造を以下のように構築します。(p.42の将来都市構造図を参照)

(1) 拠点

① 都市拠点

高次都市機能が集積する本市の中心的な役割を担うエリアとして、中心市街地及びその周辺の市街地を位置付け、拠点性の強化を図ります。

② 地域拠点

地域の生活を支えるための機能が集積する各地域の中心的な役割を担うエリアとして、公共公益施設等が集積する既成市街地を位置付け、拠点機能の維持・強化を図ります。

③ 工業拠点

製造業等の工業施設が集積する業務活動の中心的な役割を担うエリアとして、臨海工業地及び内陸部の工業団地を位置付け、産業活動の維持・発展を図ります。

④ 流通業務拠点

広域的な交通施設の利便性を活かした流通業務活動の中心的な役割を担うエリアとして、重要港湾岩国港周辺地区、岩国インターチェンジの周辺地区及び岩国市地方卸売市場周辺地区を位置付け、流通業務機能の更なる集積と強化を図ります。

⑤ 観光拠点

本市を代表する歴史、文化、自然等を有した観光地としての中心的な役割を担うエリアとして、錦帯橋等の各観光資源及びその周辺地区を位置付け、観光地としての魅力の向上を図ります。

⑥ レクリエーションエリア

良好な自然環境を活かした交流、休息、体験等ができるエリアとして、瀬戸内海国立公園、西中国山地国定公園及び羅漢山県立自然公園等を位置付け、自然環境の保全と活用を図ります。

(2) 都市軸

① 国土連携軸

国土レベルの広域的な移動を主目的とする交通施設により、広域的な連携を支える機能を担う軸として、JR 山陽新幹線、山陽自動車道、中国自動車道及び岩国錦帯橋空港を位置付け、機能維持と交通結節機能の強化を図ります。

②広域連携軸

広域的な移動を可能とする交通施設により、他都市との連携を支える機能を担う軸として、JR 山陽本線、国道2号及び国道188号等の鉄道や幹線道路を位置付け、機能の維持・強化を図ります。

③都市連携軸

都市内レベルの移動を主目的とする交通施設により、都市内の各拠点を連携する機能を担う軸として、JR 岩徳線、錦川清流線及び主要な地方道や市道等を位置付け、機能の維持・強化を図ります。

(3)ゾーン

①市街地

既に市街地が形成されている岩国都市計画区域の市街化区域及び岩国南都市計画区域の用途地域を位置付け、今後も適正な建築物や都市機能の立地誘導を図ります。

②農地・集落地

優良な農地及び農林漁業等の集落が形成されている市街地周辺のまとまった農地と集落地、中山間部の集落地及び沿岸部の集落地を位置付け、これらの環境の維持・保全を図ります。

③山地・丘陵地

市の北部に広がる山地及び市街地周辺の丘陵地を位置付け、これらの維持・保全を図ります。

④自然公園

瀬戸内海国立公園、西中国山地国定公園及び羅漢山県立自然公園を位置付け、今後も豊かな自然環境の積極的な保全と活用を図ります。

